

鎌倉の埋蔵文化財 26

Buried Cultural Properties in Kamakura 26

令和 3 年度発掘調査の概要



令和 5 年 (2023) 3 月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家による政治をはじめた地として知られ、その地下には鎌倉時代の町なみをはじめとして、旧石器時代から江戸時代に至る人々の生活の痕跡が埋蔵文化財として残されています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などの土木工事により失われてしまうことも少なくありません。貴重な歴史的遺産が失われてしまうことにもつながりますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このようにやむを得ず失われることとなる埋蔵文化財も、発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行等により、発掘調査の成果を紹介しており、また、鎌倉歴史文化交流館でも出土資料の展示を行っています。

これからも、市民をはじめとする皆さまの歴史への理解が深まるよう、様々なかたちで発掘調査の成果を公開してまいりますので、文化財の保護に対するご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

～目次～

1 武蔵大路周辺遺跡 (扇ヶ谷三丁目444番地点)	1
2 若宮大路周辺遺跡群 (雪ノ下一丁目161番36地点)	4
3 若宮大路周辺遺跡群 (大町一丁目1086番地点)	6
4 北条時房・顕時邸跡 (雪ノ下一丁目261番地点)	8
5 甘縄神社遺跡群 (長谷一丁目236番1地点)	10
英文要旨	12

～例言～

1. 本書は令和3年度に市内で実施された発掘調査の概要を中心に掲載しました。
2. 本書は鎌倉市教育委員会教育文化財部文化財課が作成しました。
3. 本書の作成にあたり株式会社博通、能谷大学 教授 北野信彦氏のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

《表紙写真》 武蔵大路周辺遺跡(扇ヶ谷三丁目444番地点)で発見された井戸跡。井戸の木枠が状態よく残ります。また井戸枠の裏側には泥岩が充填されていました。竖穴を掘り、木枠を配置しその裏込めに泥岩を充填しており、井戸の作り方がよくわかります。

1. 武蔵大路周辺遺跡^{むさしおおじしゅへんいせき}(扇ヶ谷三丁目444番地点)

Musashi-Oji-Shuhen-Iseki Site

寺院関連の土地か—高級陶磁器の出土

史跡亀ヶ谷坂の南側のこの調査地点では、鎌倉時代中頃から室町時代(13世紀中頃～15世紀)の10面にも及ぶ生活面を確認しました。中でも鎌倉時代後半から室町時代に至る生活面から、南北に延びる溝が何度も作り直された状況が発見され、連綿とした土地利用があったことが判明しました。鎌倉時代末から南北朝時代頃には、凝灰岩の切り石を数段積み上げて護岸にした溝が2条平行して作られています。両溝の間は砕いた凝灰岩を突き固めた硬い地面となっており、幅約6～7mの道路であった可能性があります。溝は何度も同じ場所に作り直され、溝が埋められた後には、木枠の上に凝灰岩の切り石を並べた井戸が作られました。この井戸が埋まった後に、再び溝が位置を変えて作られています。

溝の方向は調査地北西側の薬王寺に向かう道路にほぼ沿っているため、付近には寺に係する施設があったのかもしれませんが。薬王寺の場所にはかつて夜光山梅嶺寺という寺があったと言われていますが、創建年代等の詳細は分かっていません。

この地点では、中国から輸入された多種多量の陶磁器が出土しており、青磁、白磁、青白磁、喫茶に用いられたと考えられる天目茶碗や褐釉の小壺などがあります。写真右上の青磁の子持ち合子は、日本での出土は稀で、非常に珍しいものです。



写真1 出土した中国産陶磁器

上段左から褐釉小壺、青白磁壺、青磁壺、青磁子持ち合子の身。

中段左から天目茶碗、青磁広口壺、青白磁壺の蓋、子持ち合子の蓋。

下段左から白磁壺、白磁小壺、青白磁水注、青白磁鉢台、青白磁合子蓋

(photo 1) Excavated Chinese ceramics



写真2 烏帽子、かわらけ、箸などの一括出土状況

(photo 2) State of an excavated *eboshi* headwear, *kawarake* earthenware, chopsticks, etc.



写真3 西側調査区の石積み護岸の溝

(photo 3) Masonry revetment ditch in the west side survey area

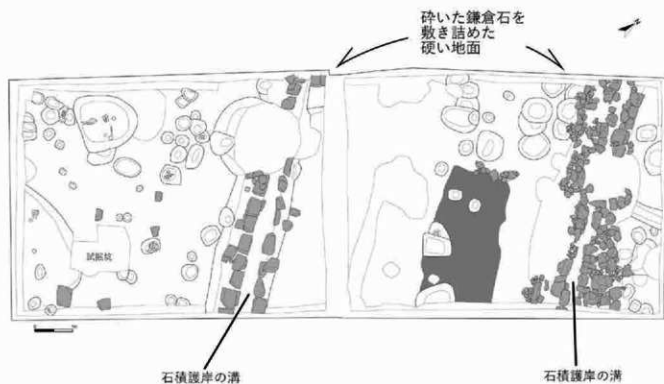


図1 鎌倉時代の遺構概略図
(fig. 1) Schematic illustration of remains in the Kamakura period



写真4 東側調査区の石積み護岸の溝
(photo 4) Masonry revetment ditch in the east side survey area

2. 若宮大路周辺遺跡群(雪ノ下一丁目161番36地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

漆職人の道具が多量に出土

調査地点は、鎌倉市雪ノ下に所在する川喜多映画記念館の南方約50メートルに位置します。調査では、鎌倉時代中頃から室町時代(13世紀中頃～15世紀)までの生活面が発見され、掘立柱建物や井戸、板壁掘立柱建物と呼ばれる粗末な建物、ごみ穴等が発見されています。

若宮大路の西側で発見される鎌倉時代中頃以降の敷地や建物の方向は、若宮大路に平行又は直交することが多いのですが、この調査地点では、それとは異なる軸方向を持った建物群が発見されています。かつては鎌倉の若宮大路を京都の朱雀大路にたとえ、京都の条坊制(方格地割)が鎌倉にも導入されていたとの説がありましたが、近年の発掘調査の成果から否定されつつあり、本地点の調査成果も、近年の説を支持する発見であると言えます。

また、注目すべきは、鎌倉時代後期の地層から漆工芸に使用された工具類がまとめて出土したことです。建物との関係ははっきりしませんが、付近に漆器制作の場があったことが想定されます。



写真5 A区第5面全景写真(西から)

(photo 5) Panoramic photo of the fifth surface of the Section A (from the west)



写真6 出土した漆工具

上段の2枚の写真はヘラ。黒漆と朱漆が付着します。形状は様々な磨りや塗り等の用途によって使い分けられていたと推測されます。2段目左は長細い玉石に漆が付着しており、これも漆を練るための工具と考えられます。2段目右及び3段目は漆の塗り器で、漆がしみ込んでいたため、硬化した土中に残っていました。このような布の出土事例は極めて珍しいものです。

(photo 6) Excavated lacquer crafting tools



写真7 出土した鞍の一部

左の写真は木製の鞍の部材で、騎乗者がまたがる座木という部分です。左側が前方（馬の頭の方）で前輪が、右側（後方）には後輪が取り付け、鞍となります。座木の細長い溝には、力革が垂れ下がり、その先に鐙が取り付けます。漆などは塗られていないため、白木の鞍と考えられます。ただし、本地点からは漆工具が少量に出土しているため、これから漆を塗られるものだったのかもしれない。

(photo 7) Part of an excavated saddle

3. 若宮大路周辺遺跡群(大町一丁目1086番地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

半地下式の倉庫跡と商人の活動

調査地点は、鎌倉市大町一丁目、夷堂橋^{あびすどうはし}の南方約70mに位置し、小町大路の西側に面します。調査では鎌倉時代後期(13世紀後半～14世紀前半)の生活面に、半地下式の倉庫や井戸が良好な状態で発見されています。

中世の半地下式の倉庫は堅穴建物とよばれる建物形式で、地面を深さ1mから2m程度を掘りくぼめ、その底面から建物を組み上げます。地上部分は未詳な部分がありますが、地表からみると、建物は半分地中に埋まった半地下式の建物であったと推定されています。本調査では、堅穴建物が何度も同じ場所で作り替えられており、木組み構造の堅穴建物が、大型のものに建て替えられ、さらに底に凝灰岩の切り石を敷き詰めたものに変遷することが分かりました。時代を経るにつれ建物が、より強固に、大きくなっていったと推定されます。

これまでの研究で、夷堂橋付近には小舟による荷揚げが存在したことが指摘されており、この荷上場に近く、小町大路に面した本調査地点は、物流の拠点であった可能性があります。



写真8 2区1面全景写真(上が西)

(photo 8) Panoramic photo of the first surface of the Section 2 (top is west)



写真 9 土台角材や壁板の残る半地下式倉庫
(photo 9) Half-underground warehouse where foundation square timbers and wall panels remain



写真 10 底面に石材が敷かれた半地下式倉庫 上の写真の倉庫が埋められて造られていた
(photo 10) Half-underground warehouse with stone laid on the bottom

4. 北条時房・顕時邸跡(雪ノ下一丁目261番地点)

Hojo Tokifusa / Akitoki Tei-Ato Site

建築部材に残る墨書

調査地点は、現在の小町通りの東側に面し、^{くろがねのい}鐵井の近接地にあります。調査では、鎌倉時代初期から江戸時代(12世紀後半～17世紀)までの生活面が、何層にもわたって発見されています。

調査地周辺は、鎌倉時代には武家屋敷群があったと推定される範囲ですが、本調査では粗末な、小規模な建物が多く発見されています。これらの建物は、武家に仕えた従者等の住居あるいは屋敷内の作業小屋や台所といった、屋敷の母屋や客殿とは異なる「裏手」にあったことが推定されています。

ただし、出土品は、^{すいてき}金銅製の水滴やガラスの小瓶の欠片など特筆すべきものがあり、近隣に有力な武家がいたことをうかがわせます。また建物の建築部材の中には絵や文字の墨書が残るものがありました。墨書きは複数人の手によって記されたものが、建築材として再利用されたものです。内容は判然としないものの、傘、男性、馬の絵が描かれており、何らかの儀式的情景を描いたものでしょうか。また花押のようにみえるものもあり、今後の解説が期待されます。



写真 11 出土した遺物
(photo 11) Excavated artifacts

写真 12 墨書きの板の出土状況 建築部材の一部に使用されていた
(photo 12) State of excavated boards with India-ink writing, which were used for some of the building materials



写真 13 墨書きの板の赤外線写真 (photo 13) Infrared photograph of boards with India-ink writing

5. 甘縄神社遺跡群(長谷一丁目236番1地点)

Amanawa-Jinja-Isekigun Site

古代の有力者の副葬品か金銅製の馬具の出土

調査地点は鎌倉文学館のそばに位置し、この辺りは由比ガ浜北側の砂丘と、さらに北側の丘陵に挟まれた湿地です。今回の調査では近世～近代と、中世の生活面が見つかり、中世より下層からは古代の土器片等が含まれる土層が見つかりました。

近世～近代では、大正12年(1923)の関東大震災後に焼けた瓦等をまとめて捨てたとみられる土坑が見つかりました。中世では、東西、南北に並ぶ柱穴列が発見され、東西の柱穴列の間隔は約110cmで、掘立柱の塼の跡と考えられます。

古代の土層からは飛鳥時代から奈良時代(7世紀後葉～8世紀前葉)を主体とする多数の土師器、須恵器が出土しました。また、動物の骨を占いに使った卜骨が出土しています。卜骨は三浦半島では漁労活動に伴う遺物と一緒に出土する事例が多いため、漁労活動を主とする人々が生活していたと推測されます。この他に、神奈川県内初の出土例となる金銅製長方形鏡板が出土しています。鏡板とは馬具の一種で、轡の一部です。馬の口にはみを噛ませその両端に付ける金具で、手綱につながる引手が接続します。これまでの発見例では、有力者の墓の副葬品として発見されることが多いため、この地域にも有力者がいたことが想像されます。



写真 14 出土した古代の遺物
(photo 14) Excavated ancient artifacts

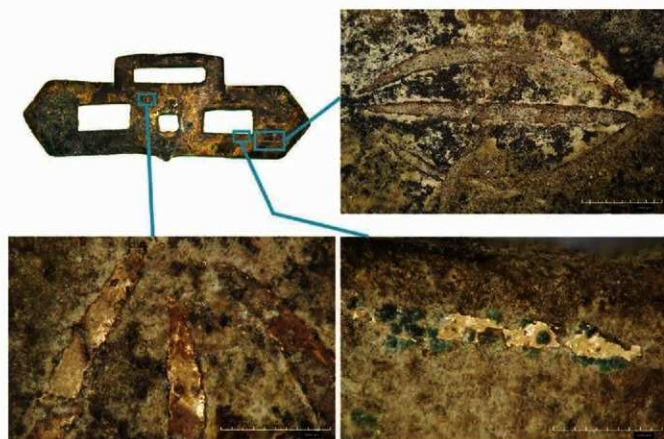
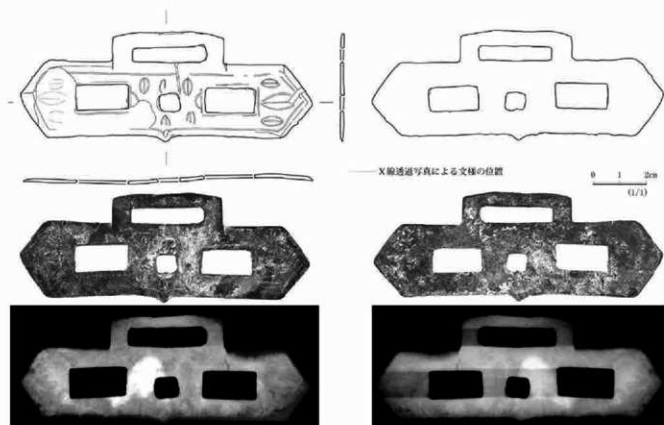


写真 15 金銅製長方形鍍板

上段：上から実測図、写真、X線透過写真。

下段：顕微鏡写真（X線透過写真及び顕微鏡写真は、龍谷大学北野教授提供）

(photo 15) Gilt bronze rectangular cheek piece

Buried Cultural Properties in Kamakura 26

1. Musashi-Oji-Shuhen-Iseki Site (444, Ogigayatsu 3-Chome)

At this survey site, located south of the historic site, Kamegayatsuzaka Pass, no fewer than 10 living surfaces from the mid-Kamakura period to the Muromachi period (mid-13th century to 15th century) were identified. From a living surface dating from the latter half of the Kamakura period to the Muromachi period, a situation in which ditches extending from north to south were repeatedly rebuilt was discovered, indicating that the land was in continuous use. From the end of the Kamakura period to the Northern and Southern Courts period, two parallel ditches were made by piling up several layers of hewn tuff to form a revetment. Between the two ditches was hard ground compacted and covered with crushed tuff, which may have formed a road about 6 to 7 meters wide. The ditch was reconstructed several times in the same location. After the ditch was filled in, a well was built by laying hewn tuff on top of a wooden frame. After this well was filled in, the ditches were repositioned and built again.

Since the direction of the ditches roughly follows the road to Yakuoji Temple on the north-west side of the survey site, there may have been facilities related to the temple in the vicinity. It is said that once there used to be a temple called Yakozan Baireiji Temple on the site of Yakuoji Temple, but the date of its founding and other details are not known.

A large variety and quantity of ceramics imported from China have been excavated in this site, including celadon, white porcelain, blue-white porcelain, as well as tenmoku tea bowls and small, brown-glazed jars thought to have been used for tea ceremonies. Shown in the upper right of the photo is a small, lidded case made of celadon, containing a smaller pot inside. This is an extremely rare artifact, being seldom excavated in Japan.

2. Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site (161-36, Yukinoshita 1-Chome)

The survey site is located approximately 50 meters south of the Kawakita Film Museum in Yukinoshita, Kamakura City. The survey uncovered living surfaces from the mid-Kamakura period (mid-13th century) to the Muromachi period (15th century), including buildings with posts driven into postholes, wells, crude buildings called board-and-batten buildings, and garbage pits.

The sites and buildings found on the west side of Wakamiya-Oji Street, dating from the mid-Kamakura period onward, are generally positioned parallel or perpendicular to the street, but at this survey site, a group of buildings with a different axial direction were found. There used to be a theory that Wakamiya-Oji Street in Kamakura was comparable to Suzaku-Oji Street in Kyoto, and that Kyoto's Jobo (grid) system had been introduced into Kamakura. However, recent excavation results increasingly contradict this theory, and the findings at this site also support the more recent interpretation.

Also noteworthy is the discovery of a collection of tools used in lacquer crafting from a stratum dating from the late Kamakura period. Although the relationship of these tools to the buildings was not clear, we can surmise that a lacquerware production site was located nearby.

3. Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site (1086, Omachi 1-Chome)

The survey site is located at Omachi 1-Chome in Kamakura City, approximately 70 m south of the Ebisudo Bridge, facing the west side of Komachi-Oji Street. The survey revealed a half-underground warehouse and a well in good condition on living surfaces dating from the late Kamakura period (late 13th - early 14th century).

Medieval half-underground warehouses were built in a style known as pit buildings, in which a pit was dug to a depth of 1 to 2 meters below the ground, and the building was constructed from the bottom of the pit. Although little is known about the above-ground section of the building, it is presumed, as viewed from the surface, that the building was a half-underground building, semi-buried in the earth. The survey revealed that pit buildings were rebuilt several times in the same location, and that the

wooden structure of the pit building was rebuilt into a larger one, which was further changed to one with hewn tuff stone laid on the bottom. It is presumed that the building became stronger and larger over time.

Previous studies have indicated the existence of a small boat loading area near the Ebisudo Bridge, and it is possible that this survey site, which is close to this loading area and faces Komachi-Oji Street, was a distribution center.

4. Hojo Tokifusa / Akitoki Tei-Ato Site (261, Yukinoshita 1-Chome)

The survey site faces the east side of what is now Komachi-Dori Street, in the vicinity of Kurogane Well. This survey uncovered layers of living surfaces from the early Kamakura period to the Edo period.

The area around the survey site is within the estimated range of samurai residences that existed during the Kamakura period, but what was found on this occasion was a number of crude, small-scale buildings. These buildings are presumed to have been the quarters of attendants who served the samurai family or work sheds and kitchens within the residences, and located on the "back side" of the samurai residences. Thus, they were distinct from the samurai residences' main houses and guest houses.

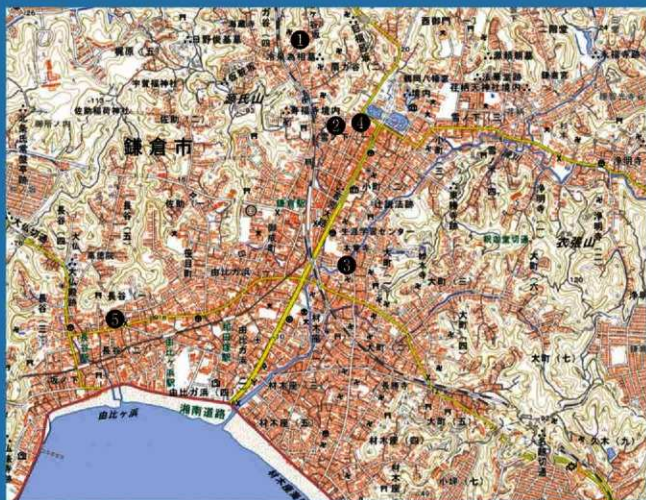
However, the excavated artifacts, which included a gilt bronze water-dropper and a piece of a small glass bottle, are noteworthy, suggesting that there was a powerful samurai family in the area. In addition, India-ink drawings and characters remained on some of the building's architectural components. The India-ink writing was made by several people and then reused as building materials. Although the content of the drawing is not clear, it includes pictures of an umbrella, a man, and a horse, and may depict some kind of ceremonial scene. Some of them also appear to be *kaou* seals, stylized signatures, and are expected to be deciphered in the future.

5. Amanawa-Jinja-Isekigun Site (236-1, Hase 1-Chome)

The survey site is located near the Kamakura Museum of Literature, an area of wetland between the dunes on the north side of Yuigahama beach and the hills further north. This survey found living surfaces from the early modern to the modern period, as well as from the medieval period. From the layers below the medieval period, clay layers containing ancient pottery fragments and other artifacts were discovered.

From the early modern to the modern period, a clay pit was found in which burnt tiles and other materials seemed to be dumped after the Great Kanto Earthquake of 1923. From the medieval period, rows of pillar holes were found aligned in east-west and north-south directions, with the east-west rows spaced approximately 110 cm apart, and are thought to be the remains of a wall made of posts driven into postholes.

A large amount of Haji and Sue pottery, mainly from the late 7th century to the early 8th century (Asuka to Nara period), were excavated from the ancient soil layer. Also unearthed were animal bones used for divination. Given that, on the Miura Peninsula, there are many cases of oracle bones found together with artifacts associated with fishing activities, we can surmise that people mainly engaged in fishing lived there. In addition, a gilt bronze rectangular cheek piece, the first example of its kind excavated in Kanagawa Prefecture, was also uncovered. A cheek piece is a piece of equestrian gear, making up part of a horse bit. These metal fixtures, attached to each end of the bit held in the horse's mouth, connect to the hooks on the ends of the reins. Since in the most previous excavation examples this kind of artifact have been discovered as burial goods in the tombs of influential people, we can speculate that such people were present in this area.



掲載遺跡名称及び所在地一覧（国土地理院地図を基に作成）

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1 武蔵大路周辺遺跡 | （関ヶ谷三丁目 444 番地点） |
| 2 若宮大路周辺遺跡群 | （雪ノ下一丁目 161 番 36 地点） |
| 3 若宮大路周辺遺跡群 | （大町一丁目 1086 番地点） |
| 4 北条時房・顕時邸跡 | （雪ノ下一丁目 261 番地点） |
| 5 甘縄神社遺跡群 | （長谷一丁目 236 番 1 地点） |

鎌倉の埋蔵文化財 26

発行日	令和5年(2023)3月31日
編集・発行	鎌倉市教育委員会 文化財課 〒248-0021 鎌倉市御成町12番18号 鎌倉水道営業所庁舎2階 電話：0467(61)3857 FAX：0467(23)1085 E-mail：bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
印刷	株式会社ポートサイド印刷